

## 井関グループのCSRマネジメント

井関グループのCSRは、農業機械を通して社会へ貢献するという使命のもと、「豊かで、持続可能な社会の実現へ貢献する」ことを目指しています。ガバナンス、社会、環境の3つの側面を意識した事業活動を通じて社会的責任を果たすとともに、ステークホルダーとのコミュニケーションを重視しながらCSR活動に取り組み、企業価値の向上に努めています。

### CSR推進体制

#### CSR推進会議の設置

CSR総括部門である総合企画部担当役員を議長、経営会議メンバーを審議メンバー、CSR推進部門の各部門長を推進メンバーとする「CSR推進会議」を設置し、PDCAサイクルに基づくマネジメント活動を実践しています。

CSR推進会議は年2回開催し

- ・CSR経営に関するビジョンや戦略の方向性
- ・グループ全体のCSR推進取り組み計画や進捗管理
- ・CSR活動の浸透、定着に向けた取り組みの企画等を審議し、重要な事項は経営会議・取締役会へ上程し、決定します。

#### CSR活動の推進

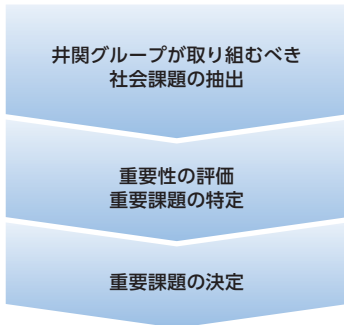
担当部門が主要事項の実行・進捗把握を管理し、関連する会議体で経営層への進捗状況報告、確認、評価を行っています。

#### 〈主な会議体〉

CSR推進会議	活動全般	広報連絡会
	お客さま(商品)	商品化会議 先端技術戦略会議 品質関連会議
	従業員	人材活性化委員会
	環境	環境企画グループ会議
	コンプライアンス	経営監理委員会

### 重要課題の決定プロセス

井関グループが取り組むべき社会課題を抽出し、「ステークホルダーにとっての関心度」と「井関グループにとっての重要性」の観点から評価、重要課題の特定を行い、CSR活動における「井関グループが取り組む重要課題」を決定しました。



ステークホルダーとのコミュニケーションから得られた多様なニーズや要請に対応するため、企業の社会的責任に関する国際規格であるISO26000や国連の持続可能な開発目標 (SDGs) 等を参考にしながら、井関グループが取り組むべき社会課題を抽出。

抽出した社会課題から、「ステークホルダーにとっての関心度」と「井関グループにとっての重要性」を評価し、グループの経営戦略と関連づけながらステークホルダーごとに重要課題を特定。

特定した8つの重要課題を、取締役会の審議を経て「井関グループが取り組む重要課題」として決定。

#### トピックス

井関グループのCSR活動について理解の深化、更なる浸透、定着を図るため、2018年1月に当社役員および国内外グループ会社を含む経営幹部約70名を対象にした「役員・幹部研修会」を実施し、活発な意見交換を行いました。



## 井関グループが取り組む重要課題

ステークホルダーにとっての関心度と井関グループにとっての重要性を評価し、特に重要度の高い8つの項目を重要課題と位置付けています。CSR推進各部門において、中期経営計画、事業計画と関連づけたCSR推進取り組み計画と目標設定 (KPI化) し、推進しています。



### ステークホルダーエンゲージメント

ステークホルダーの皆さまとの責任ある積極的な対話を行い、強固な信頼関係の構築に努めています。対話を通じて得られたご意見・ご要望は、担当部門で集約され、事業活動に取り入れられるほか、毎月初めに開催される広報連絡会を通じて経営層に報告されます。

なお、「社会的説明責任の大切さを認識し、グループ内外に対して必要な情報の迅速で正確な開示に努め、透明性のある企業づくりを心がける」を基本として、公平かつ適時適切に情報を開示しています。

#### 〈対話の充実への取り組み〉

ステークホルダー	主なアプローチ
お客さま	セールス・サービスマンとの直接対話、ユーザー会、研修会、講習会、展示会、実演会、営業技術の提案・支援、ホームページ
従業員	労協協議会、社内IR、販売会社社員大会、社内報、情報誌、社内イントラ、多種多様な研修
株主・投資家	株主総会、決算説明会、個別面談、電話ミーティング、会社説明会、施設見学会、ホームページ
取引先	協力企業IR説明会、ディーラーミーティング、視察研修会、調達先経営サポート、グリーン調達ガイドライン
地域社会	製造所&展示館 (IDG) 見学、セミナー、イベント、社会貢献活動、ボランティア活動

#### 〈情報開示の取り組み〉

報告書・情報誌	内容
有価証券報告書	事業報告書
コーポレート・ガバナンス報告書	CSR報告書
知的財産報告書	営業情報誌
カATALOG、DVD	社内報、情報誌 等
WEB	内容
適時開示 (TDnet)	コーポレートサイト
営業支援サイト 等	

※各報告書・情報誌等はコーポレートサイトにて掲載しています。